

地域支援だより

令和元年11月29日

きらりNet



第98号

秋田県立秋田きらり支援学校



居住地校交流で地域の友達の輪を広げよう



今年度、居住地校交流を行っている児童生徒は、小学部10名（7校）、中学部4名（3校）います。今年度から始まりました。「地域に友達をつくりたい」「地域の友達と一緒に学習したい」「気持ち伝えられるようにしたい」などの願いから、教科学習の他に、学級活動や校外学習、行事等に年3回程参加し交流しています。ケージョンをとった居住地の友達との関わりを通り、積極的にコミュニケーションをとったり、仲間と興味・関心合いながら親交を深めています。



ありがとう。お話し上手になったね。

ウィナーどうぞ。

図工

～保護者～

近所のお祭りに行った時、小学校の友達に会って声を掛けられました。こうして友達が増えて、理解が広がっていったらうれしいと思いました。（小学部）

小学校の友達とのつながりが中学部でも継続できてうれしいです。（中学部）



みんなの歌声きれいだな。

合唱コンクール



友達の様子を見てテストの効率的な受け方を学びました。車椅子を2階に上げることを友達にお願いして、手伝ってもらいました。

実力テスト



学級活動



動物園見学

グループのみんなでクイズを解いて周り楽しかったです。

～相手校の小学生～

新しい友達ができ、仲よくなれてうれしかったです。

～相手校の先生～

子どもたちは毎回交流を楽しみにして、自然に言葉を掛けたり、手助けしたりするようになりました。交流を通して障害について自然に理解を深めることができました。

相手校のニーズにより障害理解授業や交流会も行っています。障害理解授業では、スライドや教材利用体験を通して、本校児童生徒のことやコミュニケーションの取り方について学ぶことになり安心して交流が進められるようになります。

<文責：長谷川絵美子>



障害理解授業



学級間での交流会

実践紹介⑥ 高等部

総合的な学習の時間（2, 3年）・総合的な探求の時間（1年）

高等部1・3組の「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」では、主に交流活動に向けた話し合い活動を中心とした活動を行っています。

秋田南高校とはボッチャの試合を中心とした交流活動を2回行いました。試合の前にはグループごとにトークタイムや競技や応援の練習などをしましたが、その企画も生徒たちが考えて決めました。

2, 3年生が中心となり、昨年度までの経験から、「初対面でも話しやすい話題は?」「会話を続けるためには?」「チームとしてまとまるようなかけ声をかけようか?」など、いろいろなアイデアを出しながら話し合いを行いました。

2回目の交流の前には1回目ですまできなかった部分を修正するための話し合いも行いました。自分たちが話したいことだけを話題にしたり、ただ聞いていたりするだけではなく、お互いが楽しめる内容をじっくりと話し合っ、決めました。当日は、緊張しながらも笑顔で会話を楽しむ様子がたくさん見られました。

目標を立てても達成できない生徒もいます。しかし、なぜ達成できなかったのか、次はどの部分を努力すれば良いのかを考えることができるようになっていきます。見つけた課題を解決するために、話し合い、考えて実践することを繰り返しています。

秋田南高校との交流



試合前の円陣。「いくぞ!」

教育専門監のコーナー

《ドラえもん「育て力」》

【人生に必要なことは、すべて「ドラえもん」が教えてくれた!】

ドラえもん「ほめる力」 どんな言葉や行動が、相手を伸ばすのか? コーチングとは「与えること」ではなく「引き出すこと」

- 1 とことんほめて“やる気”に
- 2 “得意技”を見つける
- 3 “結果”より“過程”を大切に

ドラえもん「叱る力」 “厳しさ”とは、“愛情”があるからこそ成り立つもの。「ほめる力」はアクセル、「叱る力」はブレーキと同じ

- 1 はたして“目標”に向かっているか
…できないのは仕方ない、しかし“やらない”のは大問題
- 2 「大切なこと」を大切にしているか
- 3 “ルール”を教える

大切なことは、「なぜそのルールが大切なのか」

本校の交流及び共同学習は、このドラえもん「育て力」が大切にされた取組となっています。『「のび太」という生きかた』には、子ども達が自分や相手の“得意技”を見付けるヒントが紹介されています。

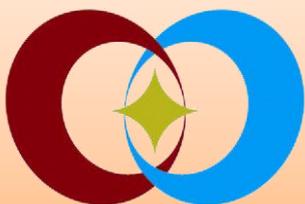
参考:「ドラえもん学コロキアム」横山泰行(富山大学教育学部名誉教授)

秋田きらりの廊下には、自分の役割を見つけて動く、主体的に子どもたちが関わる、活動と参加のある交流及び共同学習の様子が数多く紹介されています。「どんな時にも自分には担う役割と活躍の場がある」写真に写る児童生徒の笑顔が物語っています。

文部科学省の「交流及び共同学習ガイド」には、「誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指して(略)高等学校等の子どもと共に活動することは、双方の子どもたちの社会性や豊かな人間性を育成する上で、重要な役割を果たしており(略)」とあります。

高等部が進める交流会は、双方の生徒にとって自分を見つめ、社会との向き合い方や人との関わり方を考える、“自分さがし”の貴重な機会となっています。グループで企画を考え、様々な場面で役割を担い、各自が持ち味を発揮して主体的に活動します。相手や場面にふさわしい話題、行動を考えることで社会性を、相手を思いやる“おもてなし”の中で豊かな人間性を身に付けていきます。

(文責:二階堂 悟)



◇教育相談・見学の希望があれば、いつでも御連絡ください。

教頭 兜森 宏征 地域支援部主任 大友 明希子

住所: 〒010-1409 秋田市南ヶ丘1丁目1番1号

E-mail: kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話: 018 (889) 8573 FAX: 018 (889) 8575



「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>